



《ハンギングバスケットマスター》

新連載

# 使い手から 作り手へ



《園芸業界》へのメッセージ

## 頼りになる人と店があったから 花好きの輪が広がりました

(一社) 日本ハンギングバスケット協会

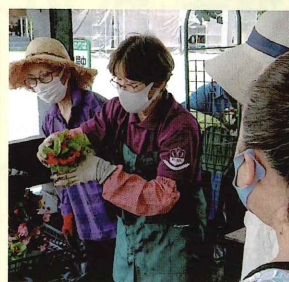
公認講師 影山 昌代さん (静岡県)



影山さんの作品は、シックな色調が特徴



静岡県庁前のハンギングバスケット



静岡市や町の講習会で花の魅力を発信



深本さんと。明日は一緒に花育教室です

新連載「使い手から作り手へ」では、苗や資材をつくる生産者やメーカー、地域の園芸文化をつくる小売り関係者(作り手)へ、園芸を楽しみ、まちに広げる人たち(使い手)のメッセージをお届けします。第1回は、(一社)日本ハンギングバスケット協会の公認講師で、前静岡県支部長の影山昌代さんから——。(高木)

### \*花の楽しみは、人と出会う楽しみ

私が花を楽しむようになったのは、息子が参加していたボーイスカウトの集まりで知り合った方にハンギングバスケットを教えてもらったことでした。それまで園芸をしたことはほとんどなかったのですが、やってみると奥が深くて夢中になりました。土をさわることも楽しかったし、花を介して人とつながることが何よりの喜びでした。

1998年にハンギングバスケットマスターになった仲間6人で「はなみずき」というグループを立ち上げました。日本ハンギングバスケット協会静岡県支部では県主催のイベントに参加したり、グループでは市や町での講習会、県庁の玄関前を花で飾るボランティアを20年以上続けました。最初は、主婦の私には行政の方との関わり方が全く分かりませんでした。

活動を支えてくれたのは、するが花き卸売市場の社長だった浅井利明さん、志太フラワーの深本伊一郎さんです。私たちのような花好きが、まちで活動しようと思ったとき、園芸業界の方たちの協力は本当にありがたかったです。それがなければ、活動はできなかつたかもしれません。

### \*園芸店の力は大きいです

特に深本さんが経営する園芸店は、頼りになる存在でした。常に目新しい花苗が並んでいて、植物のことを学ばせてもらいました。店頭での手入れもしっかりされているので、ハンギングバスケットに使ったときに傷みも出にくいんです。もう25年の常連で、買い物に行ったときは深本さんやスタッフのみなさんと話し込んでしまいます(笑)

最近の苗についていえば、生産者の方が1ポットに2、3株を植えてくれたものが少しずつ増えているのがうれしいですね。根を崩して分けると、どうしても傷んでしまうことがあります。1株ずつ簡単に分けられると、ハンギングバスケットやコンテナの寄せ植えに使いやすいです。そういう苗がもっと増えてくれたらいいなと思います。

ひとつ悩んでいるのは、苗の値段でしょうか。ハンギングバスケットの講習会の参加費は、資材・苗代込みで3千円くらいです。高額な苗ばかりは使えません。日本ハンギングバスケット協会は今、SLTハンギングバスケットに10ポットの苗を植える提案をしています。それなら、主役の花は高くても、手ごろな価格の苗を脇役にデザインすれば、見栄えのする作品ができます。

コンテストに出てくる作品は確かに素晴らしいですが、初めての人に「挑戦してみよう」と思ってもらえるのは、手ごろに始められる作品なのかな?と。園芸店や生産者の方にもぜひそういうことを知ってもらって、一緒に花好きの人の輪を広げていきたいです!